



LONG HORIZON

EQUITY REPORT

2046 / 2056

20年・30年を見据えた 長期有望銘柄 10社

個別分析・競争優位・将来性・悲観 / 基本 / 楽観シナリオ

2026年7月10日版

市場データと各社最新決算を反映

投資判断の参考資料。将来の成果を保証するものではありません。

結論：1社を当てるより、複数の「不可欠な基盤」を束ねる。

最上位の中核は Microsoft と Alphabet。半導体は ASML と TSMC、安定複利は Visa と S&P Global、実物インフラは日立、医療は Intuitive Surgical、上振れ枠は NVIDIA と整理した。

最も予測誤差に強い

Microsoft：企業ITの入口を複数握り、AIモデルの勝敗に依存しにくい。

最も強い産業上の関所

ASML：最先端半導体製造のボトルネック。ただし政策と購入価格に注意。

最も広い結果分布

NVIDIA / TSMC：上振れ余地は大きいですが、競争・設備循環・地政学の尾が太い。

選定の考え方

- ◆ 20～30年では製品名より、顧客データ・業務フロー・規格・設備・開発者生態系を握る企業を優先。
- ◆ 悲観シナリオは「業績悪化」だけでなく、優良企業を高値で買った場合の評価縮小も含む。
- ◆ 年率リターンは配当込み・税引前の主観レンジ。予測値ではなく、投資仮説の感度分析として使う。

優先順位（現在の事業品質と価格を総合）

区分	銘柄	位置づけ	投資姿勢
コア	MSFT / GOOGL	企業AI・クラウドの中心	6～12か月で分割
基盤	ASML / TSMC	半導体の関所と製造	地政学・評価を分散
複利	V / SPGI	決済・金融データ	下落時に厚く
分散	6501 / ISRG	実物インフラ・医療	価格を選ぶ
上振れ	AMZN / NVDA	高成長・高投資	比率上限を設定

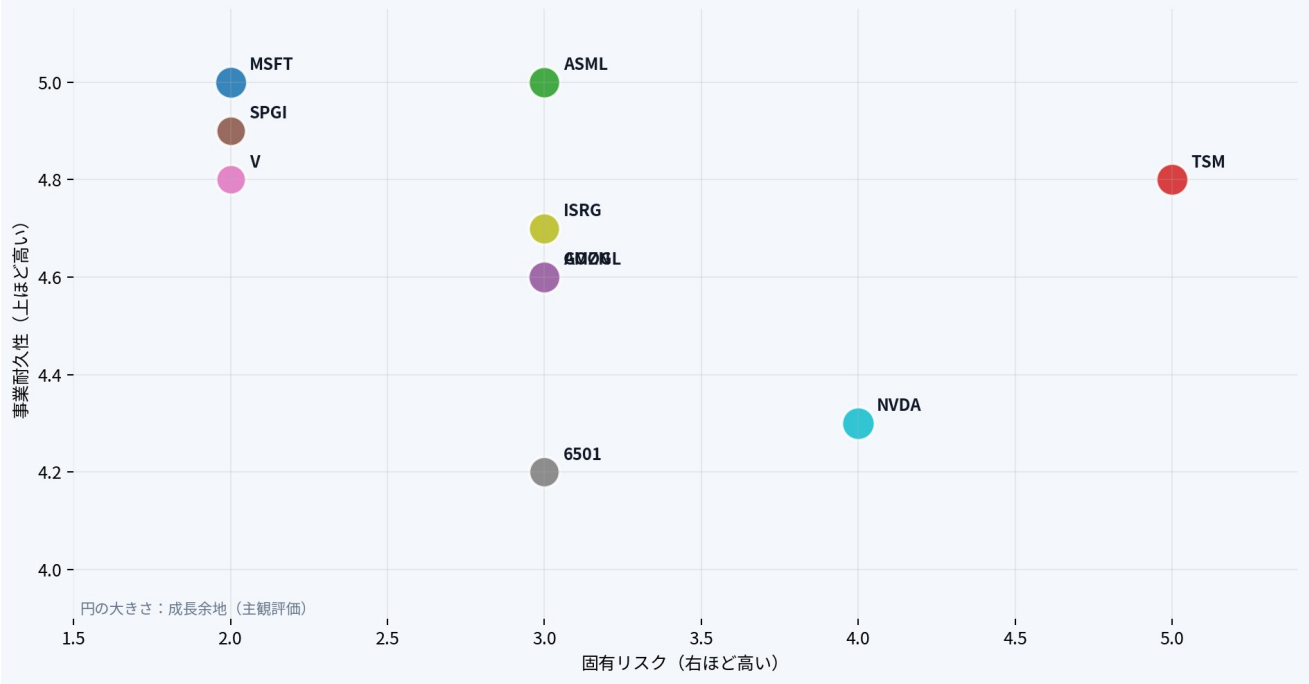
スコアは「事業耐久性・成長余地・評価水準・固有リスク」を総合した相対評価。1～2点差に大きな意味はない。

銘柄	総合	耐久性	成長	評価	固有リスク	判断
MSFT	91	5.0	4.7	4.2	2.0	中核候補
GOOGL	87	4.6	4.8	3.7	3.0	中核候補
ASML	86	5.0	4.5	2.7	3.0	基盤独占型
TSM	83	4.8	4.7	3.2	5.0	高品質・高地政学
AMZN	84	4.6	4.7	3.3	3.0	成長複合体
SPGI	85	4.9	3.8	3.7	2.0	地味な複利型
V	86	4.8	3.8	4.5	2.0	高収益インフラ
6501	80	4.2	4.1	3.4	3.0	日本の実物AI
ISRG	79	4.7	4.4	2.0	3.0	優良だが高評価
NVDA	82	4.3	5.0	3.1	4.0	最大成長・高変動

読み方の注意

- 固有リスクは数字が大きいほど高い。TSMCの5.0は事業品質ではなく台湾海峡リスクを反映。
- 評価は2026年7月時点の相対感。株価下落・利益成長で順位は大きく変わる。
- 20～30年では企業の存続だけでなく、株主1株当たり価値が増えるかを重視。

20~30年投資の「事業耐久性 × 固有リスク」マップ



悲観

競争優位の低下、規制、設備投資失敗、評価縮小のうち複数が発生。優良企業でも長期間リターンが低迷。

基本

主要事業が市場並み以上で成長し、利益率は概ね維持。現在の高い期待は利益成長で徐々に吸収。

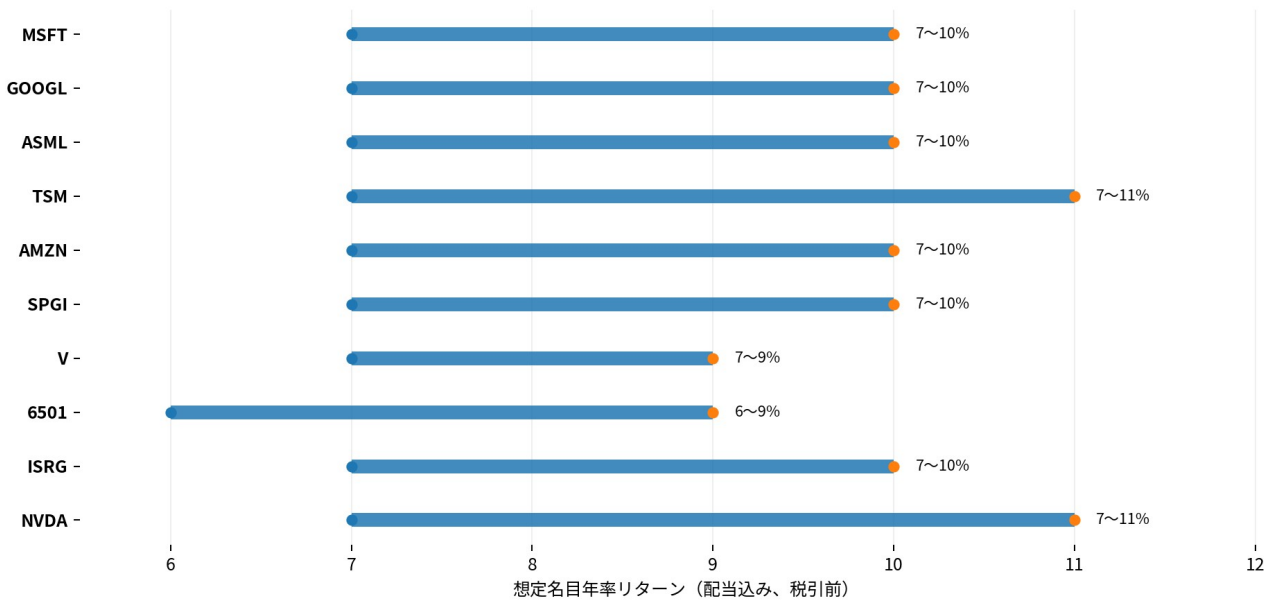
楽観

新市場を獲得し、売上・利益率・資本効率が同時改善。複数の新規事業が本業級の利益源へ成長。

年率リターンレンジの前提

- ◆ 配当込み・税引前・現地通貨ベースの概算。為替変動は含めない。
- ◆ 利益成長だけでなく、20年後のPER正常化または縮小を織り込む。
- ◆ 30年後は技術・規制・地政学の予測誤差が極めて大きいため、年率値より企業の役割と失敗条件を重視する。

基本シナリオの20年年率リターンレンジ



例：年率8%なら100万円は20年後約466万円、30年後約1,006万円。わずか2~3%の差が長期では巨大になるため、購入価格と税・コストも重要。

LATEST SNAPSHOT

FY26 Q3 売上 829 億ドル（前年比+18%）／営業利益+20%／Azure+40%／実績 PER 約 22.9 倍

LONG-TERM THESIS

企業の IT 予算を「OS・業務ソフト・クラウド・開発・セキュリティ」で一体的に取り込む。AI のモデル勝者が入れ替わっても、Azure と Microsoft 365 が利用窓口として残りやすい。

勝ち筋

- Microsoft 365 と Azure の高い乗り換えコスト
- Copilot が席単価・利用量を引き上げる可能性
- GitHub、セキュリティ、データ基盤まで横展開できる

2046 / 2056 VIEW

2046 年には「企業向け AI エージェントの OS」に近い立場を狙える。2056 年も残る確率が高いが、現在の製品名ではなく、企業の認証・データ・業務フローを握る会社として存続する姿を想定する。

重要 KPI

Azure 成長率／商用契約残高／AI 関連粗利／設備投資対営業 CF／M365 席単価

主要リスク

- ▲ AI 設備投資の回収が遅れ、減価償却負担が増える
- ▲ クラウド競争と自社開発チップで価格競争が激化
- ▲ 反トラスト規制、OpenAI との関係変化

20 年シナリオ（年率）

悲観 2~5%	クラウド成熟、AI が低採算化、規制で東ね売りが難化
基本 7~10%	Azure・M365 が市場並み以上で成長し、AI 収益化が徐々に進む
楽観 11~14%	Copilot/エージェントが新しい業務標準となり、単価と利用量が同時上昇

ポートフォリオでの役割

個別株ポートフォリオの最大級コア。高値追いより分割購入。

INVESTOR NOTE 最も「何が流行っても利用料を取れる」構造に近い。20~30 年の予測誤差を吸収しやすい。

データ出所：Microsoft FY2026 Q3 Investor Relations（2026 年 7 月 10 日時点で利用可能な最新情報）

LATEST SNAPSHOT

2026 Q1 Google Services 売上 896 億ドル (+16%) / Cloud 売上 200 億ドル (+63%) / Cloud 営業利益率 32.9% / 実績 PER 約 27.4 倍

LONG-TERM THESIS

検索広告の巨大キャッシュフローを、Gemini・TPU・Google Cloud・Waymo へ再投資できる。AI が検索を壊す側面と、検索体験・広告対象を拡張する側面を同時に持つ。

勝ち筋

- 検索、YouTube、Android の世界規模の配信力
- 自社モデル・自社半導体・クラウドの垂直統合
- Cloud、サブスク、Waymo が広告依存を薄める

2046 / 2056 VIEW

2046 年は検索企業というより「世界の情報・映像・位置情報・AI 推論の入口」になっている可能性がある。2056 年までの鍵は、検索広告の利益を新しい収益源へ移せるか。

重要 KPI

検索クエリと広告単価 / Cloud 営業利益率 / AI 回答コスト / CapEx / Waymo 有料走行規模

主要リスク

- ▲ AI 回答が広告クリックを代替し検索収益性が低下
- ▲ 巨額 CapEx が先行し、投資回収が不透明になる
- ▲ 米欧の独禁法・広告技術規制・事業分割リスク

20年シナリオ（年率）

悲観 0~4%	検索の収益モデルが崩れ、CapEx と規制コストが利益を圧迫
基本 7~10%	検索が AI へ適応し、Cloud と YouTube が二桁成長を維持
楽観 11~15%	Gemini・TPU・Cloud・Waymo が複数の大型利益源へ育つ

ポートフォリオでの役割

MSFT と並ぶコア候補。ただし検索破壊リスクを認識して比率管理。

INVESTOR NOTE AI は最大の脅威であると同時に最大の再加速材料。投資判断は検索の利用量より「収益性」を見る。

データ出所：Alphabet 2026 Q1 Earnings Call（2026 年 7 月 10 日時点で利用可能な最新情報）

LATEST SNAPSHOT

2026 Q1 売上 88 億ユーロ / 粗利率 53.0% / 純利益 28 億ユーロ /
2026 年売上見通し 360~400 億ユーロ

勝ち筋

- EUV と High-NA EUV の技術・供給網・サービス網
- 装置稼働後も保守・アップグレード収入が積み上がる
- 計算需要増加と微細化難易度上昇が装置価値を高める

2046 / 2056 VIEW

2046 年まで半導体が計算の中心である限り、ASML は極めて重要。ただし 2056 年では光学露光以外の方式が台頭する可能性もあり、「独占が永続する」とは置かない。

重要 KPI

受注高 / EUV・High-NA 台数 / 粗利率 / 中国売上比率 / 主要顧客 CapEx

LONG-TERM THESIS

最先端半導体の微細化に必要な EUV 露光装置を事実上独占する。AI チップの設計企業を当てなくても、最先端製造能力の増設から利益を得られる。

主要リスク

- ▲ 対中輸出規制と地政学による販売市場縮小
- ▲ TSMC・Samsung・Intel への顧客集中
- ▲ 新方式、チップレット、微細化停滞で装置強度が低下

20 年シナリオ（年率）

悲観 1~5%	輸出規制、設備投資循環、微細化投資の停滞が重なる
基本 7~10%	EUV 需要が継続し、サービス売上と High-NA 移行が進む
楽観 11~14%	計算需要が予想以上に増え、露光工程の価値と台数が同時拡大

ポートフォリオでの役割

半導体株の中核。ただし高評価時は購入速度を落とす。

INVESTOR NOTE 企業の質は最上位。最大の敵は競合より「高すぎる購入価格」と政策リスク。

データ出所：ASML Q1 2026 Financial Results（2026 年 7 月 10 日時点で利用可能な最新情報）

LATEST SNAPSHOT

2026 Q1 売上 359 億ドル（前年比+40.6%）／粗利率 66.2%／営業利益率 58.1%／会社予想：2026 年売上+30%超

勝ち筋

- 先端ノードの量産力と圧倒的な顧客基盤
- CoWoS 等の先端パッケージが新たな制約点になる
- AI・スマホ・車載・HPC の複数需要源

2046 / 2056 VIEW

平時なら 2046 年の計算インフラ中心企業である可能性が高い。一方、2056 年の企業価値は技術力だけでなく、台湾海峡の政治リスクに大きく左右される。

重要 KPI

先端ノード比率／先端パッケージ能力／粗利率／海外 Fab 損失／顧客集中／台湾情勢

LONG-TERM THESIS

設計会社の勝敗にかかわらず、最先端ノードと先端パッケージ需要を取り込む。製造歩留まり、顧客信頼、量産速度は短期間で複製しにくい。

主要リスク

- ▲ 台湾有事、封鎖、制裁という非連続リスク
- ▲ 海外工場のコスト高と利益率希薄化
- ▲ 顧客の自社設計・Samsung/Intel Foundry の追い上げ

20 年シナリオ（年率）

悲観 -5~3%	地政学ショックまたは海外展開コストで収益力が構造悪化
基本 7~11%	先端ノードとパッケージで価格決定力を維持
楽観 11~15%	AI 計算需要が長期化し、製造能力不足と高稼働が続く

ポートフォリオでの役割

期待収益は高いが、単一銘柄比率を抑えるべき特殊リスク資産。

INVESTOR NOTE 最良級の事業と最も重いテールリスクが同居する。ASML と同時保有して地政学を分散。

データ出所：TSMC 2026 Q1 Quarterly Results（2026 年 7 月 10 日時点で利用可能な最新情報）

LATEST SNAPSHOT

2026 Q1 売上 1,815 億ドル (+17%) / AWS 売上 376 億ドル (+28%) / AWS 営業利益 142 億ドル / 実績 PER 約 29.6 倍

勝ち筋

- AWS の企業向け計算・データ基盤
- 広告とマーケットプレイスの高収益化
- 物流ロボット、在庫配置、ラストワンマイルの効率改善

2046 / 2056 VIEW

2046 年は「クラウド企業+世界規模の物流 OS」に進化する可能性。2056 年まで残るには、低採算小売の規模を高収益サービスへ継続転換できるかが重要。

重要 KPI

AWS 成長率と営業利益率 / 設備投資 / 広告成長 / 小売単位コスト / FCF

LONG-TERM THESIS

AWS、広告、物流網、Prime という複数の規模の経済を持つ。AI 投資の負担は大きいですが、自社チップ・クラウド・小売自動化へ転用できる範囲が広い。

主要リスク

- ▲ AI データセンターの過剰投資で FCF が低迷
- ▲ 小売・クラウド・労働慣行への規制
- ▲ AWS が Azure/Google Cloud/顧客自社基盤にシェアを奪われる

20 年シナリオ (年率)

悲観 2~5%	CapEx 過剰、AWS 鈍化、小売規制で FCF が長期停滞
基本 7~10%	AWS と広告が伸び、物流効率化で利益率が緩やかに上昇
楽観 11~14%	自社 AI チップとロボットがクラウド・物流の両方を再加速

ポートフォリオでの役割

成長株の準コア。利益より FCF と設備投資効率を重視。

INVESTOR NOTE 会計利益は投資評価益で振れやすい。長期判断では AWS 利益と営業 CF から CapEx を引いた実質余力を見る。

データ出所：Amazon Q1 2026 Results (2026 年 7 月 10 日時点で利用可能な最新情報)

LATEST SNAPSHOT

2026 Q1 売上 +10%/調整後 EPS +14%/実績 PER 約 27.4 倍/2026 年 7 月に Mobility 事業を分離

LONG-TERM THESIS

信用格付け、指数、価格情報、金融データは市場参加者の業務に埋め込まれている。資本集約度が低く、値上げ・継続課金・自社株買いが長期複利を作りやすい。

勝ち筋

- 格付け・指数・データの規制・信頼・ネットワーク効果
- Capital IQ 等が金融ワークフローへ深く定着
- AI 時代ほど「検証済みデータ」と権利処理の価値が増す

2046 / 2056 VIEW

2046 年にはデータを閲覧する会社より、金融 AI へ信頼できるデータと基準を供給する会社になっている可能性。2056 年も「市場の物差し」が必要な限り残りやすい。

重要 KPI

有機売上成長 / 継続収入比率 / 格付け発行額 / 指数連動資産 / 営業利益率

主要リスク

- ▲ 社債発行低迷で格付け収益が循環的に減少
- ▲ 生成 AI がデータ画面や分析機能をコモディティ化
- ▲ 買収統合・事業分離後の実行リスク

20 年シナリオ（年率）

悲観 3~6%	発行市場低迷と AI による価格圧力が同時発生
基本 7~10%	データ・指数の値上げと市場成長で高一桁 EPS 成長
楽観 10~13%	AI ワークフローと私募・エネルギーデータで市場を拡張

ポートフォリオでの役割

景気敏感な AI 銘柄を補う高品質複利株。

INVESTOR NOTE 派手なテーマ性は薄いですが、30 年投資ではこうした「制度と業務に埋め込まれた会社」が強い。

データ出所：S&P Global Q1 2026 Results / Mobility Separation（2026 年 7 月 10 日時点で利用可能な最新情報）

LATEST SNAPSHOT

FY26 Q2 純収益 112 億ドル (+17%) / 決済額+9% / 越境決済+12%
 / 処理件数+9% / 実績 PER 約 20.3 倍

LONG-TERM THESIS

信用リスクを直接抱えず、世界の名目消費・旅行・デジタル化から薄く広く収益を得る。決済ネットワークの信頼・加盟店・金融機関接続は非常に再現しにくい。

勝ち筋

- 現金から電子決済への世界的移行
- 越境決済と付加価値サービスの高成長
- トークン化・不正検知・エージェント決済への適応

2046 / 2056 VIEW

2046 年にカード形状が消えても、認証・ルーティング・不正対策・精算は必要。Visa がカード会社から「決済プロトコル企業」へ変われば 2056 年も強い。

重要 KPI

決済額 / 越境決済 / 付加価値サービス成長 / テイクレート / 規制・訴訟費用

主要リスク

- ▲ 手数料規制と加盟店訴訟
- ▲ リアルタイム決済・ステーブルコイン・口座間決済
- ▲ 巨大プラットフォームが決済を内部化

20 年シナリオ (年率)

悲観 3~6%	手数料規制と代替決済が収益単価を長期低下させる
基本 7~9%	名目消費と電子化に沿い、高一桁利益成長を継続
楽観 10~12%	AI エージェント・トークン化でも標準ネットワークを維持

ポートフォリオでの役割

安定成長株のコア。今回の 10 社では評価面も比較的良好。

INVESTOR NOTE ステーブルコインは脅威だけでなく、Visa 網を使う新しい決済ルールになり得る。対応速度を確認。

データ出所：Visa FY2026 Q2 Earnings Release (2026 年 7 月 10 日時点で利用可能な最新情報)

LATEST SNAPSHOT

FY2025 売上 10.59 兆円 (+8%) / Adj. EBITA 率 12.4% / コア FCF1.17 兆円 / 日立エナジー受注残 9.2 兆円 (+42%)

勝ち筋

- 世界的な送電網更新とデータセンター電力需要
- 鉄道信号・制御、産業設備の長期受注残
- OT のドメイン知識と IT/AI を組み合わせる Lumada

2046 / 2056 VIEW

2046 年には「フィジカル AI と社会インフラ」の代表企業になれる可能性。2056 年も電力・交通・産業設備は残るため、ソフトウェア単体企業より需要の消滅リスクが低い。

重要 KPI

日立エナジー受注残と利益率 / Lumada 成長 / ROIC / 大型案件損失 / 事業再編

LONG-TERM THESIS

電力網、鉄道、工場、IT という現実世界の設備とデジタルを接続できる。AI 時代の制約となる電力・設備保全・人手不足を、Lumada/HMAX と実機で解決できる点が特徴。

主要リスク

- ▲ 大型プロジェクトの遅延・採算悪化
- ▲ 為替・中国景気・中東案件の影響
- ▲ 複合企業ゆえの資本配分と組織複雑性

20年シナリオ (年率)

悲観 2~5%	案件採算悪化、景気後退、複合企業ディスカウントが継続
基本 6~9%	電力網・鉄道・国内 DX が伸び、利益率と ROIC が改善
楽観 9~12%	送電網不足とフィジカル AI 需要を世界規模で取り込む

ポートフォリオでの役割

日本株の長期コア候補。米国テック偏重の分散にもなる。

INVESTOR NOTE 昔の日立ではなく、事業売却と収益改革後の社会インフラ企業として評価する。

データ出所：Hitachi FY2025 Consolidated Results (2026年7月10日時点で利用可能な最新情報)

LATEST SNAPSHOT

2026 Q1 売上 27.7 億ドル (+23%) / da Vinci 手術件数+16% / 設置台数 11,395 台 (+12%) / 実績 PER 約 50.0 倍

LONG-TERM THESIS

本体販売後に器具・消耗品・保守・リース収入が積み上がる。医師訓練、病院設備、臨床実績がネットワーク効果となり、単純な機械性能だけでは追いつきにくい。

勝ち筋

- 設置台数と手術件数の増加による継続収入
- da Vinci 5、Ion など適応領域の拡大
- 高齢化と低侵襲手術の長期需要

2046 / 2056 VIEW

2046 年は手術ロボットが標準化し、機器よりデータ・術式・サービスが価値源泉になる。2056 年の勝者は完全自動手術より、医師を安全に補助する統合プラットフォームと予想。

重要 KPI

手術件数成長 / 消耗品売上 / 設置台数 / 競合導入 / 粗利率 / 償還制度

主要リスク

- ▲ Medtronic、J&J、地域メーカーとの競争
- ▲ 保険償還・病院予算・訴訟・規制
- ▲ 高 PER のため、成長鈍化だけで大幅な評価縮小

20 年シナリオ (年率)

悲観 0~4%	競争激化と評価縮小が成長を相殺
基本 7~10%	手術件数と消耗品が二桁近く成長し、シェアを維持
楽観 11~14%	適応領域・地域・自動化機能が拡大し医療標準になる

ポートフォリオでの役割

医療成長株。品質は高いが、購入価格を最も厳しく見る銘柄。

INVESTOR NOTE 良い会社と良い投資は別。大きな調整時ほど魅力が増す典型。

データ出所：Intuitive Surgical Q1 2026 Earnings (2026 年 7 月 10 日時点で利用可能な最新情報)

LATEST SNAPSHOT

FY27 Q1 売上 816 億ドル（前年比+85%） / GAAP 粗利率 74.9% / 実績 PER 約 30.9 倍

LONG-TERM THESIS

GPU 単体ではなく、CUDA、ネットワーク、システム、ライブラリで開発者とデータセンターを囲い込む。AI 計算量が増えるほど恩恵を受けるが、現在の利益率は永続前提にしない。

勝ち筋

- CUDA とソフトウェア生態系の高い移行コスト
- 学習から推論、ロボット、科学計算への市場拡大
- 高速製品サイクルとネットワーク統合

2046 / 2056 VIEW

2046 年まで加速計算の中心に残る可能性は高いが、2056 年に現在同様の支配率を維持する保証はない。長期では GPU 会社から「計算プラットフォーム会社」へ進化できるかが核心。

重要 KPI

データセンター成長 / 粗利率 / 推論比率 / CUDA 採用 / 大手顧客 CapEx / 自社 ASIC 比率

主要リスク

- ▲ Google/Amazon/Microsoft 等の自社 ASIC
- ▲ AI 設備投資サイクル反転と在庫調整
- ▲ 輸出規制、顧客集中、粗利率正常化

20 年シナリオ（年率）

悲観 -3~4%	AI 投資過剰と ASIC 移行で売上・利益率が同時に低下
基本 7~11%	成長率は正常化するが、CUDA と製品更新で高い利益を維持
楽観 12~16%	AI があらゆる産業の計算層となり、推論・ロボット需要が爆発

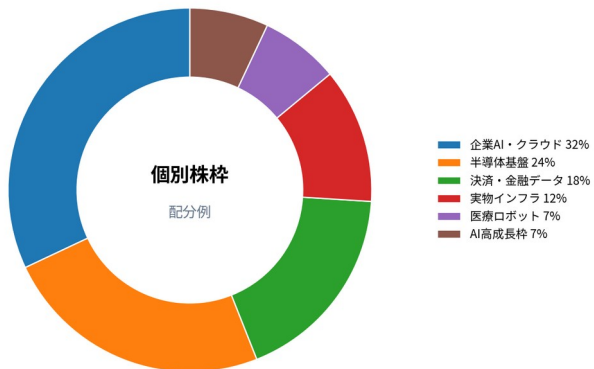
ポートフォリオでの役割

上振れ枠。コアにし過ぎず、利益成長と顧客 CapEx を監視。

INVESTOR NOTE 今後 20 年の最大勝者候補だが、結果の分布も最も広い。期待値と集中リスクを分けて考える。

データ出所：NVIDIA FY2027 Q1 Results（2026 年 7 月 10 日時点で利用可能な最新情報）

テーマ別の分散イメージ



例：個別株株 100 の配分

銘柄	比率
MSFT	16%
GOOGL	15%
ASML	11%
TSM	9%
AMZN	10%
SPGI	9%
V	9%
日立	8%
ISRG	6%
NVDA	7%

実行ルール

- ◆ 半年～1年に分けて4～6回購入。高PER銘柄は市場全体の下落時に購入回数を増やす。
- ◆ 単一銘柄は個別株株の20%を上限、TSMCは地政学を考慮して10%前後を上限の目安。
- ◆ 3～5年ごとに「競争優位が維持されたか」を再評価し、株価下落だけを理由に買い増さない。
- ◆ S&P 500や全世界株を中核に置き、個別株は超過収益を狙う補助株として扱う方が再現性は高い。

監視領域	黄色信号	赤信号	主な対象
競争優位	成長率が市場平均へ接近	顧客流出・価格決定力低下が3年以上	全銘柄
設備投資	CapEx 増に FCF が追いつかない	需要鈍化後も投資負担が残る	MSFT/GOOGL/AMZN/NVDA
技術移行	代替技術の採用が増える	標準・開発者・顧客が競合へ移る	ASML/TSM/NVDA
規制	罰金・手数料制限が増える	事業分割・利益モデルの構造変更	GOOGL/MSFT/V/SPGI
地政学	輸出規制・海外工場コスト増	操業・物流・市場アクセスが遮断	TSM/ASML/日立/NVDA
評価	利益より株価が大幅に先行	成長鈍化と PER 縮小が同時進行	ISRG/NVDA/ASML
資本配分	大型買収・還元の本質が低下	ROIC が資本コストを長期下回る	全銘柄

原則

株価が下がっただけ

競争優位と利益見通しが維持されるなら、売却理由にはしない。価格低下は将来リターンを改善する。

仮説が壊れた

市場シェア・価格決定力・資本効率が構造的に悪化した場合、含み損でも縮小を検討する。

企業・資料	公式 URL
Microsoft FY2026 Q3 Earnings	www.microsoft.com/en-us/investor/earnings/fy-2026-q3/press-r...
Alphabet 2026 Q1 Earnings Call	abc.xyz/investor/events/event-details/2026/2026-Q1-Earnings-...
ASML Q1 2026 Financial Results	www.asml.com/news/press-releases/2026/q1-2026-financial-resu...
TSMC 2026 Q1 Quarterly Results	investor.tsmc.com/english/quarterly-results/2026/q1
Amazon Q1 2026 Results	ir.aboutamazon.com/news-release/news-release-details/2026/Am...
S&P Global Q1 2026 / Mobility Separation	investor.spglobal.com/investor-relations-overview/default.as...
Visa FY2026 Q2 Earnings Release	investor.visa.com/files/doc_financials/2026/q2/Q2-2026-Earni...
Hitachi FY2025 Consolidated Results	www.hitachi.com/content/dam/hitachi/global/ja_jp/press/files...
Intuitive Surgical Q1 2026 Earnings	isrg.intuitive.com/news-releases/news-release-details/intuit...
NVIDIA FY2027 Q1 Results	nvidianews.nvidia.com/news/nvidia-announces-financial-result...

市場データ

株価・時価総額・実績 PER は 2026 年 7 月 10 日の市場データフィードを参照。市場時間・ADR 換算・会計基準差により変動する。

免責事項

本資料は一般的な情報提供と仮説整理を目的とし、特定の金融商品の売買を推奨するものではない。シナリオ、評価、年率リターンは作成者の主観的推定であり、将来の成果を保証しない。株式は元本割れ、為替、流動性、規制、地政学等のリスクを伴う。最終判断は自身の資産状況・投資期間・税制を踏まえて行うこと。